TEARS

鷺

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ＴＥＡＲＳ

【Ｎコード】
Ｎ０７８４Ｄ

【作者名】
鷺

【あらすじ】
大陸エッダには人間と魔族が暮らしていた。魔族の王子、ノヴァを中心にめぐるストーリー！！

序章

＝序章＝

大陸エッダには、西と東を４分の３と４分の１に分けるユーラ河を境として人間達のすむカーデル国と魔族の住むザーラン国が存在した。

魔族とは額に２本の小さな角を持ち鋭い牙・爪そしてコウモリのような翼を持つ人間とは違う進化をしてきた生物。優れた魔族の戦士は魔力をもち魔法も使えるという。

魔族は人間の１００分の１しかいないが人間より圧倒的に強く人間を好んで食べるため、カーデル国の国民は一ヶ月で十数人、魔族に連れ去られるのだった。

人間は魔族に対抗すべく数と兵器をもって応戦していた。

アーガイルとの訓練

＝ザーラン国・ザーラン城＝

コンコン…

「ノヴァ様…アーガイルです。」

部屋の中にいるノヴァと呼ばれた魔族の少年はベッドから起き上がり扉を開けた。

扉の前には魔族の青年が立っていた。

「訓練の時間です。」

「訓練か…アーガイル今日は負けないぞ！！」

「何をおっしゃいます。私はまだ全然本気を出していませんよ。さぁ、行きましょう。」

アーガイルは階段を下りていくとノヴァはアーガイルの後ろをついていった。

城のなかにある大きなコンクリートで囲まれた部屋についた。そこでは数人の魔族の戦士が手合わせをしていた。壁のあちこちに焦げたような後もあり、どうやらここが訓練所のようだ。

「ノヴァ様の訓練の時間です。申し訳ありませんがお部屋を空けてください。」

アーガイルがそういうと訓練をしていた戦士達はぞろぞろと一斉に部屋を出て行った。

部屋の中にはアーガイルとノヴァの二人だけになったが数人の戦士がドアのところで中を見ている。

「ノヴァ様、初めは軽くウォーミングアップのつもりで手合わせしましょう。」

とアーガイルは耳打ちをした。

「？…わかった。じゃあ、いくぜぇ！」

ノヴァは少し首を傾げたが一旦後ろに下がると地面を思いっきり蹴りアーガイルに突っ込んだ。しかし、アーガイルはいとも簡単によ

けノヴァの背中にチョップを入れた。地面に叩きつけられたと思ったノヴァは四肢でうまく着地するとまた飛び上がりアーガイルの右頬にパンチをうつがこれもまた上手くアーガイルに止められてしまった。
「すごい……流石は歴代最も強いと言われる魔族の王サタン様の息子だ。」
「サタン様とまではいかないが…将来が楽しみだ。」
とドアのところで見ていた戦士たちが話し、少し立つと部屋を出て行った。
「さて、そろそろ本気でかかってきていいですよ。ノヴァ様。」
「あぁ…なぁアーガイルなんでいつも誰かが見てるときは本気でやっちゃいけないんだ？」
「ノヴァ様に秘められた力は歴代最強と言われるサタン様をはるかにしのぎます。それをサタン様が知ればいい気はしないでしょう。そうなればあなたの命も危険にさらされるでしょう。」
「俺が…父上を超える？あの…父上を？」
「はい。今は、まだサタン様にはかないませんが、近い将来あなたは必ずサタン様を超えますよ。力を持つということは危険なことなのです。サタン様はあの絶大な力を持ってしまったために力に飲まれ、支配者になってしまった…ノヴァ様…あなたは力に飲まれてはいけませんよ。あなたの力は絶大…それ故に使い方を考えねばならないのです。分かりましたね？」
「あ…あぁ…」
「では、訓練の続きをしましょう。」

始点

ノヴァは自室のベッドで寝転んでいた。
「はぁ～…退屈だぁ…なんか面白いことないかなぁ…」
そういい、２・３度寝返りをうつといきなり起き上がり
「そうだ！！城を出て外に遊びに行こう。でも、どこいこっかなー。外っていってもザーラン国・・・城以外は荒地だしなぁ・・・う～～ん。。。よし！人間の国でも見に行こう。人間なんて毎日食ってるけどどんな生き物かちゃんと見たことほとんどないもんな！」
そう言いノヴァは窓を開け、空へと飛んでいってしまった。
「はぁ～空飛ぶのって気持ちいい！なんで俺、今まで城飛び出そうとか考えなかったんだろう…」
ノヴァは空に円を描くように飛んだりと空中遊泳を楽しんでいた。
「それにしても本当に荒地ばっかだな。草木とか生やしたら気持ちいいだろうに。でも、まぁ親父は超肉食だからなぁ…自然とか言ったら怒られそうだな。」
少したつと前方に大きな川が見えてきた。
「お！？あれがザーラン国とカーデル国の国境のユーラ河だな！でっけー。」
ノヴァはユーラ河までスピードを上げ、河上へ来ると河をじっくり眺めていた。
「でっけー…この川がなかったら魔族と人間はどうなってたんだろ…。」
とボーっと考えていた。
「！？痛っ！！！」
気づくとノヴァの右羽は弓矢で打ち抜かれていた。
「い…つ…のまに…くそっ！」
ノヴァは一気に下降していく。
「羽が動かない…飛べない！」

ノヴァは川へと落ちてしまった。
「がはっ！！くそ…流れが速い…」
そのまま意識を失いユーラ河の激流に飲まれ流されていってしまった。

運命の出会い

＝運命の出会い＝

「う…ん…わあぁぁ！！！……ん？？」

ノヴァは目を覚ました。

「俺…生きてるのか？…確か羽を撃たれて…川に落ちて流されたんだよな…ここはどこだ？ザーラン国ではないようだが…」

辺りを見回すと、そこには緑にあふれ、荒地のザーラン国とは全く違う場所だった。

「あっ！気づいたんだね！！よかった！」

声の聞こえる方を振り向くと男の子と女の子がこちらへ走ってくる。

「誰だ？お前は…ここは…どこだ？」

「僕はアーチェ。7歳。で、こっちが妹のエレナ。5歳だよ。ここはユーラ河の下流…カーデル国の領土だよ。君は？？」

「俺はノヴァ。7歳だ…。」

「わぁ！同い歳だ！！僕ら二人で暮らしてて裕福じゃないから同い年の友達なんていないんだよね。」

アーチェは思いっきり喜び、エレナはアーチェの後ろに隠れた。

「それより！なんで俺を助けたんだ！？」

「え…なんでって…傷ついてたから。」

「俺は魔族だぞ！」

「うん。分かってる。」

「魔族は人間を食べるんだぞ！！？本当にわかってるのか！？」

「うん。じゃあ…君は僕とエレナを食べる？？」

「いや…恩人のお前達は食べないが…」

「なら、いいじゃないか！！僕らは今日から友達だね。」

「友達！！」

アーチェに続いてエレナも念押しした。

「あぁ…分かったよ。友達だ。ところで…俺はどれくらい眠ってた

？お前達の親はどうした？」
「二日前だよ！！エレナがノヴァを見つけたの！！」
「そうだね。エレナ。　母さんは僕らが生まれてすぐに病気で死んだ。父さんは魔族を倒しに行くって1年前行ったっきり帰ってきてない。」
「じゃあ…おそらくお前達の父親は……」
その場を沈黙が包んだ。
「すまない！！本当にすまない！！俺は魔族の王子だ！お前たちの父親のこと…俺にも責任がある！！俺を殺してくれ！」
ノヴァはアーチェとエレナに向かって土下座をすると、泣いて謝った。
「ノヴァ…顔を上げて。君のせいじゃない。君は悪くないよ。」
アーチェがそういうとエレナがノヴァの頭をなでた。
「…しかし…」
「じゃあこうしよう！！ノヴァは傷が治るまで僕たちと一緒にここで暮らすっていうことで♪」
「へっ！？…あぁ…分かった…。どちらにしろ今のままじゃ帰れないしな。それとお前達に誓おう『俺は二度と人間を食べない』と。」
「うん！！！」
ノヴァとアーチェとエレナはお互いの顔を見て満面の笑みを見せ合った。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0784d/

TEARS

2010年10月21日22時47分発行